

PES - E の臨床使用報告 - アルブミンを中心に -

両国東口クリニック

宮城 知徳、松山 良信、深瀬征樹、西連地 康
大山 恵子、諸見里 仁、大山 博司

はじめに

- NIPRO社製PES - E (以下E)はそのアルブミン(以下Alb)漏出の少なさから血中Alb濃度値(以下血中Alb)の改善が期待できると思われた。
(カタログスペックAlbふるい係数0.01以下、推定Alb漏出量0.3g)
- また、 β_2 -Microglobulin(以下 β_2)高値の患者などハイパフォーマンス膜を使用したい患者などへの使用が期待された。
- 血中Albと β_2 についてその推移を調べた。

方法

- 当院でダイライザーをE₂に変更した患者の血中Albを月1回ならびにE₂を2ヶ月に一回測定した。
- 透析液排液から求めたAlb漏出量を、NIPRO社製PES-D (以下PES-D)、旭メディカル社製APS-SA (以下APS-SA)と比較した。
- 比較に際しては菅野有造(東京医科歯科大学)らによる持続採取法(*1)によって透析液排液からAlb漏出量を算出した。(QD = 400 ml / minより500 ml / h持続採取)

*1: 第47回日本透析医学会学術集会・総会抄録0-1530「ローラーポンプを用いた溶質除去算出について」

症例報告

63才女性(原疾患:多発性嚢胞腎、透析歴6年、週3回4h透析)透析導入5年のFB - 150Pを使用していたが、2005年8月の検査で2の上昇を認めためたので下記のように変更した。

2006年1月までAPS - 15S

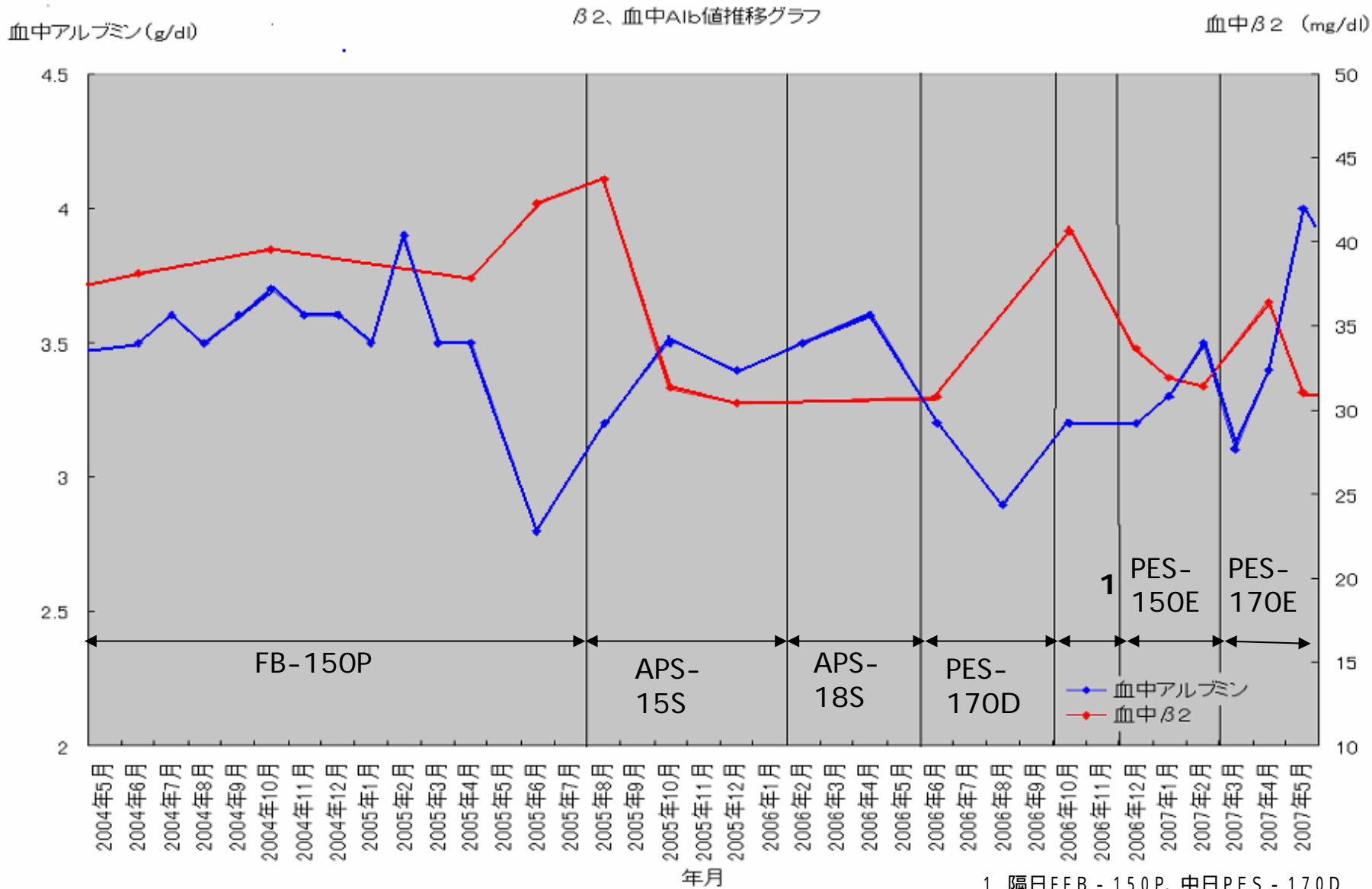
同年2月～APS - 18Sへ変更

同年6月～18Sの供給停止 PES - 170D

同年10月～FB - 150Pを週2回隔日、PES - 170Dを中日に使用

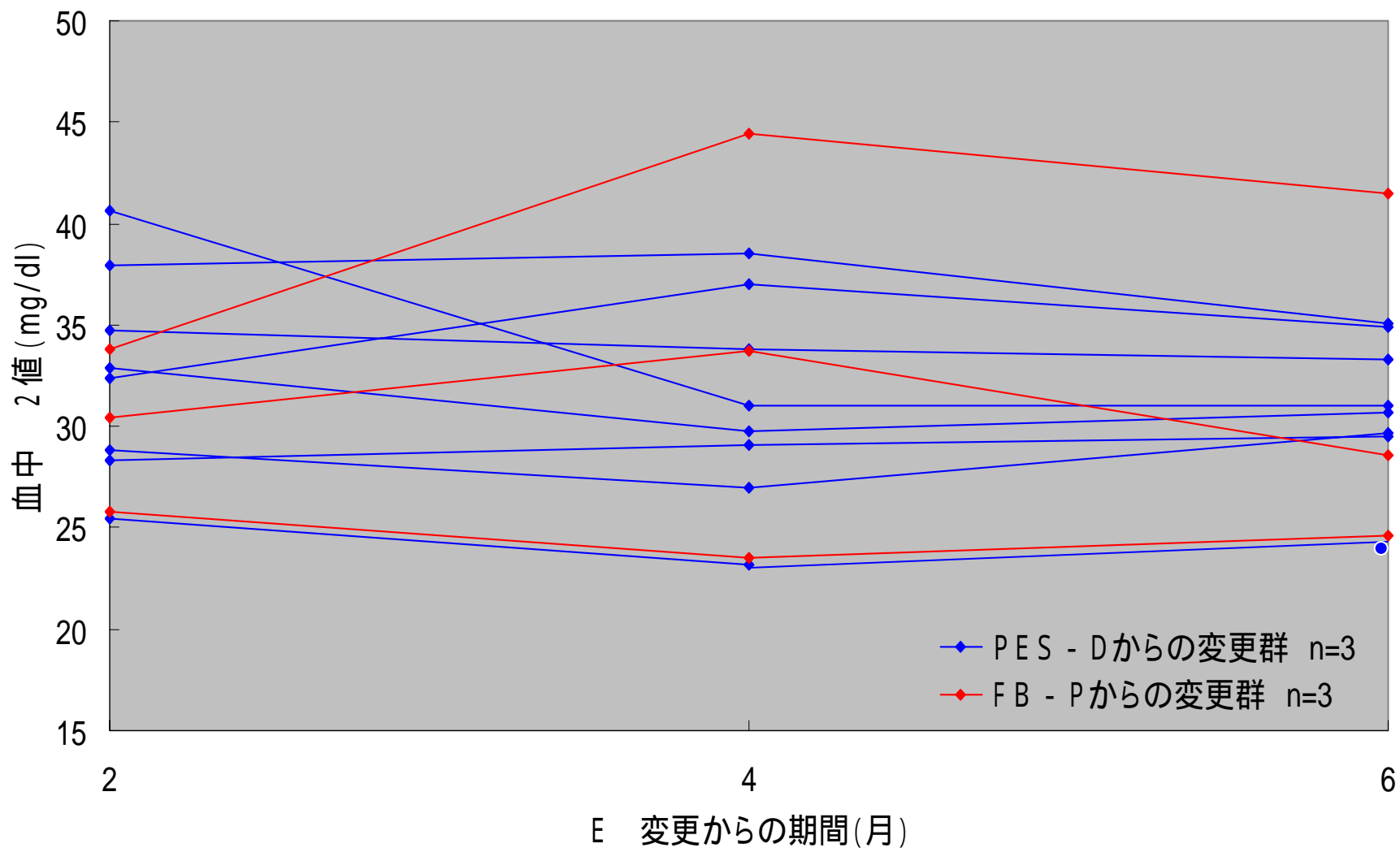
同年12月～PES - 150E

ダイライザーと血中 2 - MG、Alb濃度グラフ



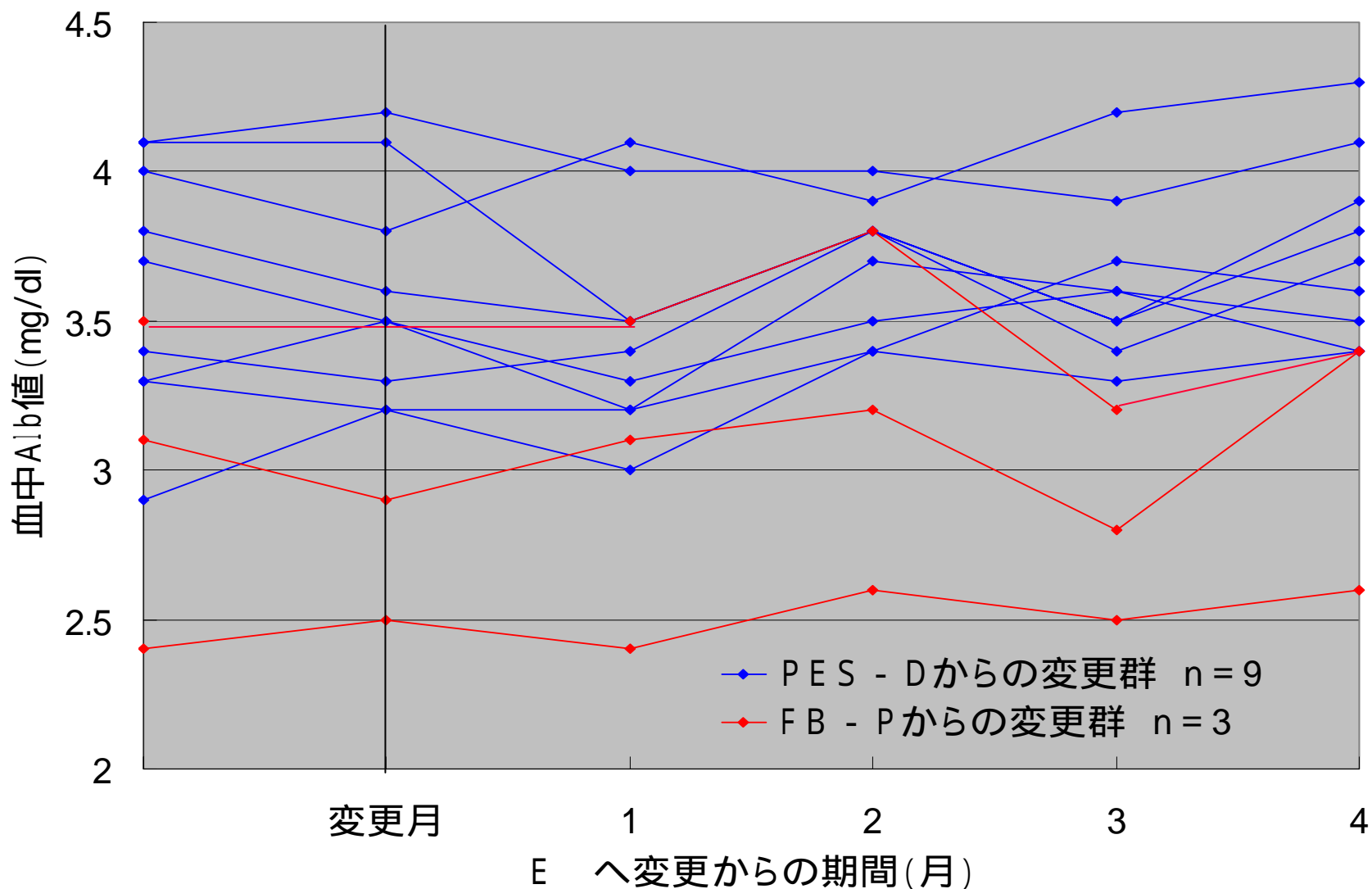
血中 2 - MG濃度推移

変更前ダイアライザー素材別血中 2値グラフ



ダイアライザー別血中アルブミン濃度推移

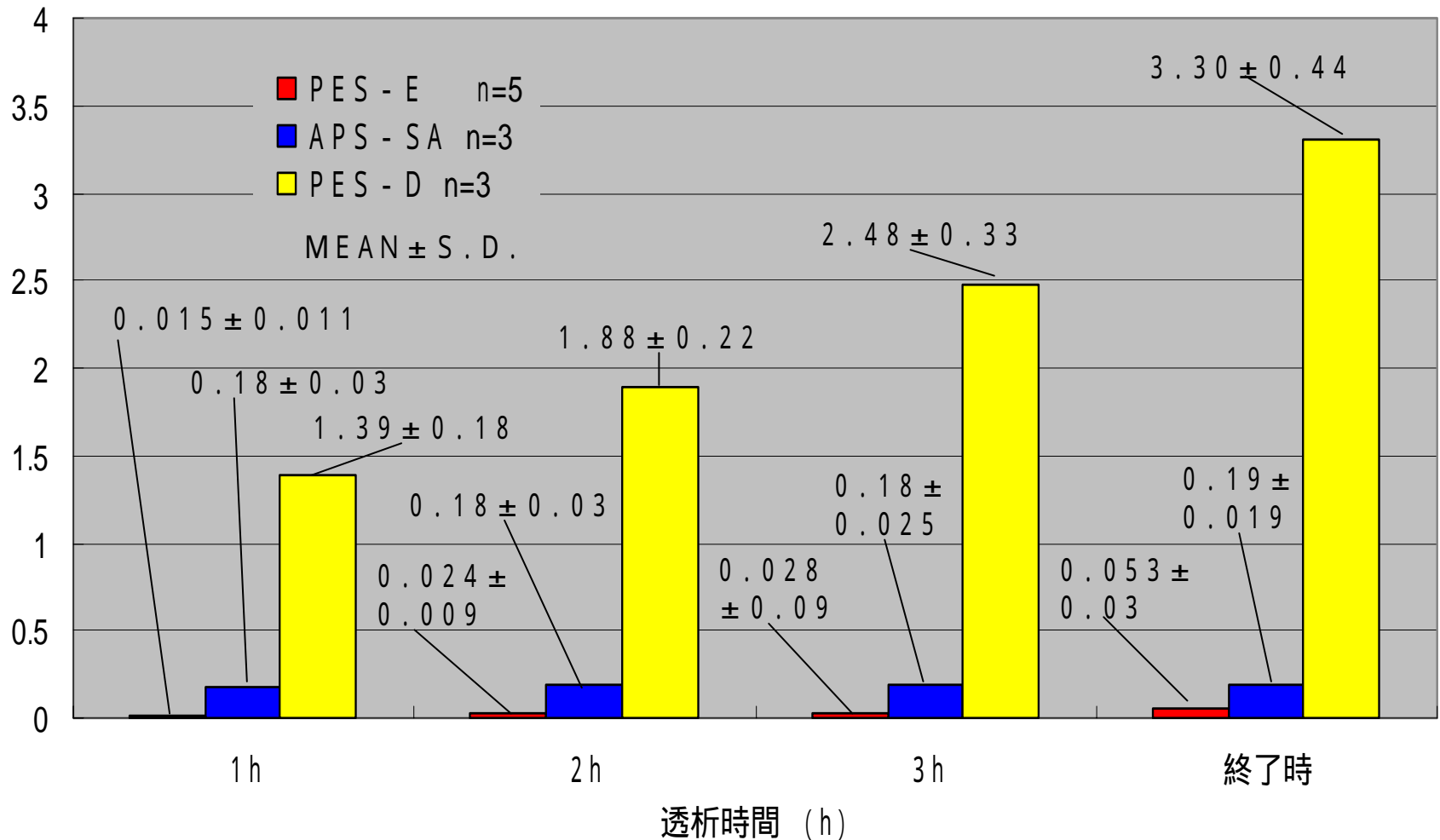
ダイアライザー別血中Alb値推移グラフ



アルブミン漏出比較棒グラフ

ダイライザー別アルブミン経時漏出量グラフ

アルブミン漏出量 (g)

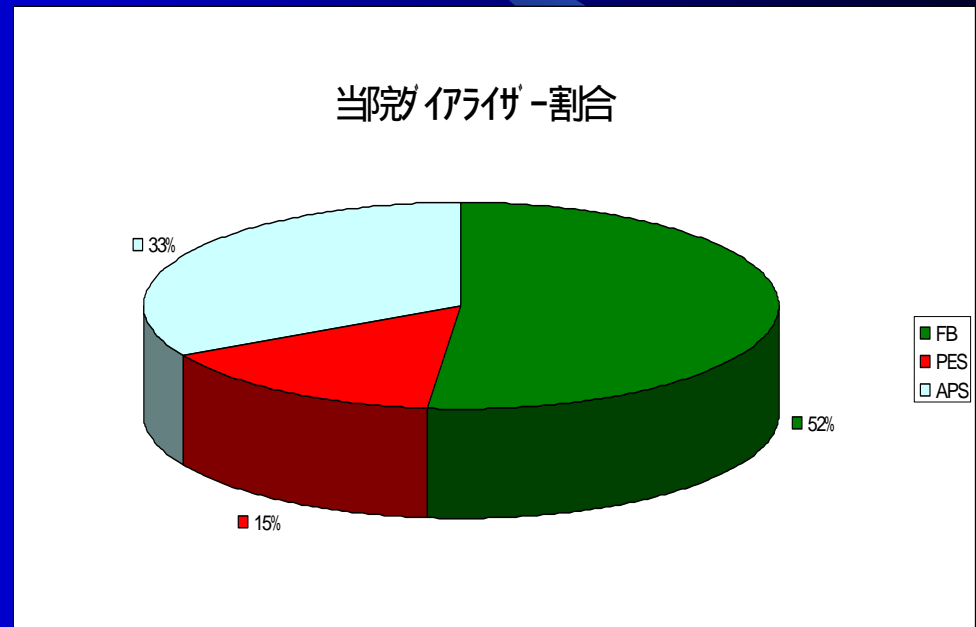


結果・考察

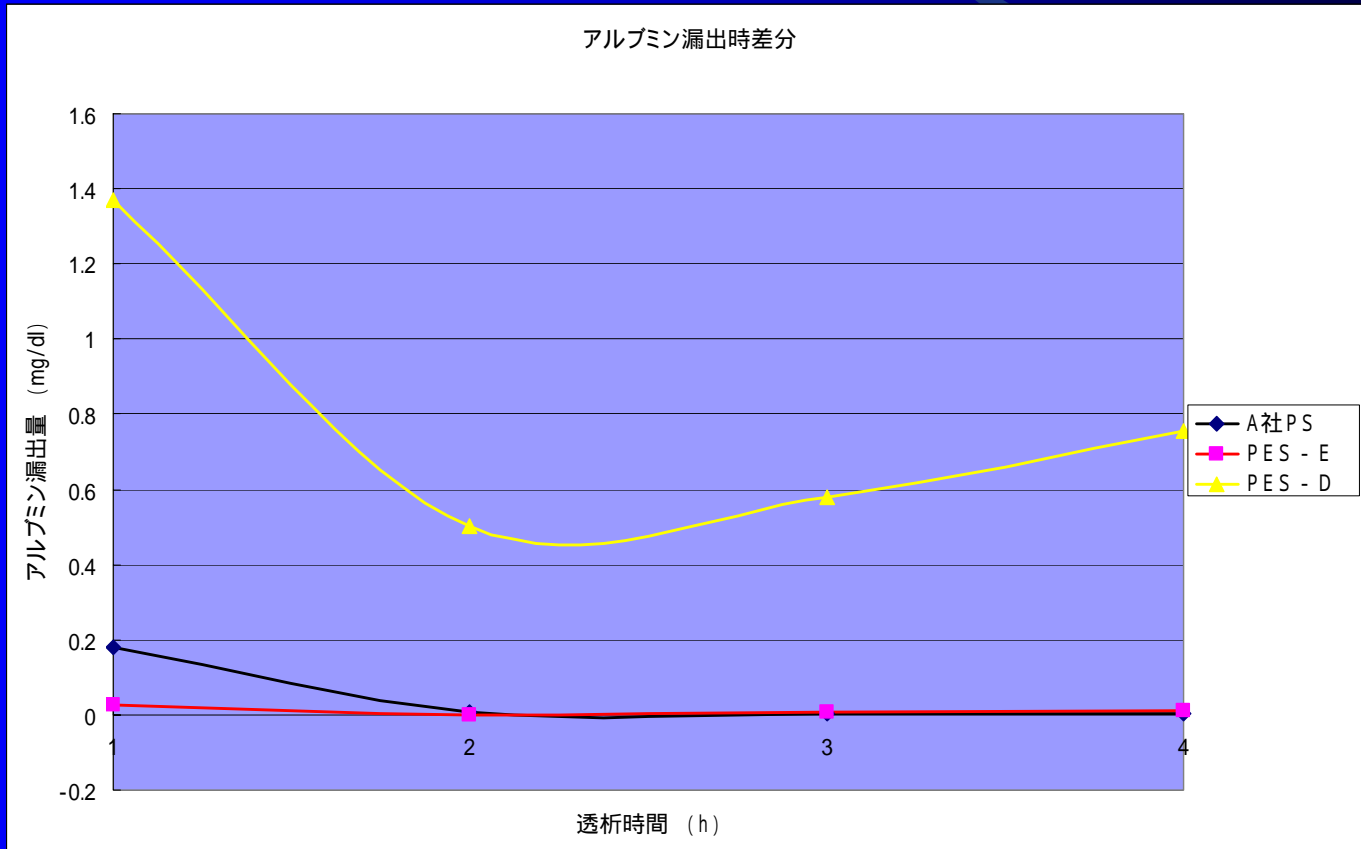
- E のアルブミン漏出量は計測した他の2つの膜素材よりも少なかった。
- E 使用群は比較したどの膜素材からでも 2 を上昇させることはなかった。
- E の使用は臨床的にも低アルブミン症例に有効であると思われた。今後もより対象者数を増やし、調べることが望まれる。
- E の使用によってアルブミン、及び 2 の改善に効果が考えられるものと思われ、アルブミン値が改善することは生命予後の向上ならびにグリコアルブミン測定精度の向上にも効果があるものと思われる。

当院のPES - E 使用患者の割合

当院 イライザ - 割合			
	患者数	%	平均年齢
FB	47	49	62.4
PES	14	16	62.5
APS	30	34	53.5



アルブミン漏出時差分比較



アルブミン漏出積算比較

各素材のアルブミン漏出積算量

